

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立大阪わかば高等学校
取り組む課題	生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導が必要な生徒の自己実現に関する諸指標（中退率 6%以下、自己実現達成度 80%以上、単位修得率 65%以上）等）の向上 ・「多文化共生」に関する指標の向上（学校教育自己診断「多文化について学ぶ機会」67%以上）
計画名	「日本語教育推進校」としてのミッションを担うための環境整備 ～「多文化共生」を推進するための環境づくり～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の中期的目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 「学び続ける力」を育む <ul style="list-style-type: none"> ①安心して学べる学習環境の整備 ②わかる喜びやできる楽しさを実感できる学習支援 (2) 「他者と関わり生きていく力」を育む <ul style="list-style-type: none"> ①自分の個性を大切にし、互いの個性を尊重する。 ②ボランティア活動、地域連携などにより、自己肯定感・自己有用感を高める。 「自分の将来を考える力」を育む ①生徒一人ひとりが希望する生き方や進路を実現できるよう、入学時から組織的・計画的にキャリアアプロンニング能力を高める取組みをすすめる。 (4) 信頼される学校づくり <ul style="list-style-type: none"> ①家庭や地域との連携強化により、多様な生徒を支える地域に根ざした多文化共生をすすめ、すべての生徒一人ひとりを大切に育てていく。
事業目標	<p>今後予想される日本語指導が必要な生徒の増加を視野にいれ、これまでの課題となってい る ①体系的な日本語指導のメソッドの確立、②教材開発、③点在化する他校の生徒への支援 体制の形成、④日本語指導教員の育成、⑤母語・母文化教育の充実、⑥生活支援の方策の構 築など、今後府立学校として必要な「日本語教育推進校」としての役割を担うべく本校の環 境整備および教育コンテンツの開発・実践を行う。</p> <p>（本校は、令和4年度より「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜実施校」 となり、選抜枠での入学者を含め2次選抜、編転入等で日本語指導が必要な生徒数は約30 名（4月現在）となっている。）</p>
整備した設備・物品	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスプロジェクター 1個 ・HDMI ケーブル（7m） 1個 ・ソフトキャリングケース 1個
取組みの主担・実施者	<p>主 担：多文化共生担当教員 実施者：日本語指導にかかる教員（全教員）</p>
本年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○地元企業へのインターンシップの実施 ○地元自治連合会との交流を通じて、自国の文化や言葉等を発信 ○生野区役所と連携を図り、防災イベントや自転車マナーに係る多言語版ポスターの作成 ○生野区役所、NPOと連携した本校生徒による親子向けイベントの運営 ○生野支援学校の児童生徒との多文化交流会の開催

成果の検証方法 と評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ○多文化共生の学校づくりの成果を他校や地域へ発信 ○日本語指導が必要な生徒の単位修得率（前期・後期）、日本語運用力の向上 ○学校教育自己診断における多文化共生についての意識の向上 ○日本語指導が必要な生徒の中退率、進路実現の達成度
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ○地元自治連合会や生野区役所を中心に、本校の活動を広く発信した。 【○】 ○日本語指導の必要な生徒の単位修得率は減少した。 (R4 : 92% ⇒ R6 : 84.6%) 【△】 ○学校教育自己診断において、多文化共生についての意識がやや向上した。 (※R5 : 92% ⇒ R6 : 93.6%) 【○】 ○日本語指導の必要な生徒の中退率はやや上昇した。 (R4 : 2.5% ⇒ R6 : 3.7%) 【△】 ○日本語指導の必要な生徒の進路決定率は100%を維持した。 (※R5 : 100% ⇒ R6 : 100%) 【◎】 ○気軽に相談できる先生がいると回答した生徒の割合が上昇した。 (R4 : 78.2% ⇒ R6 : 85.1%) 【◎】 ※R5実績の記載については、R4には該当する質問項目がなかったり、該当生徒がいなかったためである。
事業まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年で日本語指導の必要な生徒が急激に増加したことにより、これまでのような手厚い支援ができず単位修得率や中退率については、厳しい状況となっている。その一方で3年間の取組みを通じて、体系的な日本語指導のメソッドや教材開発、生徒支援の方策については、推し進めることができた。また、生徒の意識の変化にも見られるように、違いを認め合いお互いを尊重する姿勢の向上が図られた。 ・令和10年度から、大阪府における日本語指導の拠点校になることを踏まえ、日本語指導や母語指導を含めた多文化共生の取り組みをさらに深化させるとともに、他の府立高校に通う日本語指導の必要な生徒やそれに関わる教職員をサポートできるよう、支援体制を強化させていきたい。

3. 事業費報告

今年度事業費総額	65,450	円
----------	--------	---

積算内訳

* 決算科目（節）を明示し、節毎に積算内訳を記載すること。

積算内訳	科目（節）	番号	内訳	単価	数量	金額
	3 消耗需用費	1	ビジネスプロジェクター	¥58,850	1	¥58,850
		2	ソフトキャリングケース	¥4,510	1	¥4,510
		3	HDMIケーブル（7m）	¥2,090	1	¥2,090
					小計	65450
					合計	¥65,450